

令和6年度 学校自己評価

中津市立 深水小学校

1 学校の教育目標

多様性を尊重し、ともに学びあい、自主・自立の力を身につけた児童の育成

2 育成を目指す資質・能力

コミュニケーション力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～89%
C	…達成率60～69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組	
生きて働く知識・技能の習得	基礎基本の定着（もっと学びたい）	学校	◇児童が「学ぶことが楽しい」と実感できる授業づくり ◇個別最適な学びの保障	①授業者は、「めあて（課題）・まとめ・ふりかえり」のある授業を行う。（1日3回以上） ②習得した用語（キーワード）を使った「まとめ」「振り返り」を行う。（1日2回以上） ①授業でICTを活用する場面を1日1回以上作り積極的に活用する。（AIドリル・eライブラリー等の活用） ②毎日、個に応じた学習時間を保障する。（朝短時間学習など）	B	○「授業がよくわかる」「友だちと学ぶことが楽しい」・・・肯定的評価100% ○国の単元末テスト（知・技）・・・67% ○算の単元末テスト（知・技）・・・83% →達成・取組指標の見直しをして取り組む
		家庭	◇基本的な生活習慣の確立	①保護者は毎日「早寝・早起き・朝ごはん」を続ける。	A	保護者アンケート4段階評価 肯定的評価・・・100% →継続して取り組む
		地域	◇学習への積極的支援	○地域は、学習内容に応じたゲストティーチャーとして授業支援を行う。	A	読み聞かせ、農業体験、書写指導、道徳授業で実施 →継続して取り組む
思考力・判断力・育成力	学びを深める、拡げる力の育成（もっと挑戦したい）	学校	◇協働的な学びの時間の充実 ◇背伸び活動の推進	①授業者は、児童が「多角的・多面的」に考えて書くことができる学習の手立てを工夫する。（1単元1回以上） ②「発言・発表マニュアル」を活用した発言・発表の場の設定（単元計画に明示する。） ①国語、算数は、多様な活用問題に取り組ませる。（単元毎に） ②「背伸び読書」及び「すきま読書」に取り組ませる。（週2回以上）	A	○国の単元末テスト（思・判・表）・・・83% ○算の単元末テスト（思・判・表）・・・83% →達成・取組指標の見直しをして取り組む
		学校	◇児童会活動を通じた自主的・創造的な活動の推進 ◇豊かな体験活動の充実	①学校生活上での課題を見つけ、PDCA（計画・実施・評価・改善）を回しながら課題解決させる。（月1回以上）	A	○「友だちと協力しながら学んでいる」の項目 肯定的評価・・・100% →取組指標をより具体化して継続して取り組む
学びに向かう力、人間性等の涵養	協働的に課題を解決する力の育成（もっと貢献したい）	家庭	◇家族の一員としての役割分担の明確化	○子どもの思いを尊重した話し合いをする。家族の一員としての「家の仕事」を決め、すすんで実行しているときは、その都度、ほめる。	A	保護者アンケート4段階評価 肯定的評価・・・100% →継続して取り組む
		地域	◇深水子ども応援団活動の継続	○学期に2回以上、深水子ども応援団活動（道徳、総合的な学習、環境整備等）を行い、対話をしながら児童の活動意欲を高める。	A	プール掃除7/2実施 田植え活動7/1実施 →継続して取り組む
		学校	◇会議時間内の効率的運営	①各種資料の電子データベース化による事前共有 ②各種の活動や行事等の来年度用の直後プランの作成	A	○放課後4時間以上の事務時間確保 3/3 ○各種資料のデータベース化やプランの作成が進んでいる →継続して取り組む
働き方改革の推進	校務分掌の効率化	家庭	◇会員減による活動の効率化	○保護者は行事を精選し連絡メールで日常的に連絡・調整を行う。	A	○ワークライフバランス回答100% ○保護者向け連絡を紙からメールへの切り替え →継続して取り組む
		地域	◇学校運営協議会の充実 ◇PTA準会員としての学校支援	○各種会議では、建設的な意見等で意形成を図る。 ○毎月8日の三光あいさつ運動に参加したり登下校の見守りをしたりする。 ○学校だよりで情報を共有し積極的に学校の活動に参加する。	B	○在校超過勤務時間 4月 平均 44.33時間 5月 平均 30.17時間 →継続して取り組む
		学校	◇ワークライフバランスが取れている。」と回答する教職員が90%以上になる。 ○在校時間の1ヵ月の超過勤務時間を平均40時間以内にする。			